

2008 大会プレイバック

＜マスターズ甲子園2008・第5回大会＞
2007～2009シリーズ第2幕（父の日開催）

第5回大会では、本大会の主催団体・全国高校野球OBクラブ連合に加盟する29都道府県・314校のうち18都府県・287校による各地方予選・ブロック大会を勝ち抜いた、計8チームの376名と甲子園キャッチボール（一般編・親子編）参加者448名からなる、総勢824名が甲子園球場に集結し、約800名のスタッフ・ボランティアが大会運営を支えました。

開会式では、星野倫一大会名誉会長が開催挨拶を述べられ、福島県代表の磐城高校OBチームの親子選手が星野大会名誉会長を前に、憧れの甲子園のグラウンドで選手宣誓を行いました。代表OB試合には、最年少18歳から最高齢77歳までの選手が出場し、全選手376名の中で、高校時代に甲子園出場を果たせなかった約9割の337人が甲子園デビューを実現。埼玉県代表の武南高校OBチームは、高校野球部創部以来、現役を通じて初の甲子園出場を果たしました。甲子園キャッチボールには、元高校野球関係者（部員、監督、マネージャー）であれば、チームメイト同士や他校の元選手、兄弟、夫婦等で参加できる「一般編」に38ペア、片方が元高校野球関係者であれば出場できる「親子編」には、最年少2歳から最高齢71歳までの186ペアが出場し、父の日の甲子園球場でフィールド・オブ・ドリームスが実現しました。

また、植草節で知られる植草貞夫氏が試合を実況し、夏の高校野球選手権大会の初代学生司会者である山内佑利子氏による式典司会と選手インタビューが行われました。夏の高校野球選手権大会開会式でブラカード係を務めた市立西宮高校OGと高校当時ブラカードを持ってなかった同校のOGと共に各チームの先導役として入場行進を担当。かつて甲子園に憧れたアナウンサーや審判員、ボランティア、スタッフもそれぞれの想いで甲子園デビューを実現しました。元高校球児でもある浜田省吾氏からの提供による大会テーマソング「光と影の季節」と、甲子園キャッチボール親子編・プログラムテーマソング「I am a father」の応援歌バージョンを高校吹奏楽部ボランティアがスタンドで演奏。参加者の家族や知人が応援する中、各校卒業生も球場に駆け付け、スタンドでも甲子園同窓会が盛り上げられました。

